



【編集・発行】 社会福祉法人黒部市社会福祉協議会 平成26年3月1日発行

この広報誌は一部共同募金の助成金により発行されています。

特集 「忘れていませんか。震災から3年、復興はまだ道半ば。」

地域の今を届ける密着レポート／介護予防入門教室を開催
イベントpick up!／ティータイムに合うデザートを作ろう!

連載／ふくしスマイル・ワーカー

etc.



【保存版】くろべ防災Book付き

うなづき

[場所] 黒部市宇奈月老人福祉センター
介護予防通所事業
生き生き倶楽部

時間/9:30~15:00
参加無料!
対象/65歳以上の方 ※■は休館日

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	31	1
2	3	4	5	6	7	8
	体操	体操		体操	体操	
9	10	11	12	13	14	15
	健康体操	健康体操		健康体操	健康体操	
16	17	18	19	20	21	22
	春祭り	春祭り	春祭り	春祭り		
23	24	25	26	27	28	29
30	31	ヤンバイ 映画館		ヤンバイ 映画館	ヤンバイ 映画館	

時間/10:30~ 健康体操 岡崎 明子先生

春祭り のご案内

歌謡舞踊、民謡、民舞など楽しみましょう!

17日(月):高山舞踊研究会 18日(火):黒部民謡友の会
19日(水):ゆりサークル・他 20日(木):ひまわり民舞会、松扇会、二輪草

参加自由
10:30から



生きがいヤンバイ映画館

昭和40年作品 **大冒険**

出演:植木 等

3月24日(月)・25日(火)・27日(木)・28日(金)

時間/13:00から **入場無料!**

場所/黒部市宇奈月老人福祉センターにて

編集後記

誰もが誰かの無事を祈ったあの日から3年が過ぎようとしています。今、私たちに何ができるのか。枕元にスリッパを置いて寝る、避難場所まで歩いてみる、災害に関する研修へ参加する。あの日を思い出し行動を起こしてみませんか。

編集 中野

福祉・ボランティアに関することは

社会福祉法人黒部市社会福祉協議会
http://www.kurobesw.jp/hello.html

●本所 黒部市福祉センター内
〒938-0022 黒部市金屋464-1
TEL.(0765)54-1082(代表) FAX.(0765)52-2797
TEL.(0765)57-1089(ケアセンター・ホームヘルプセンター)
Eメール kurobesw@ma.mrr.jp

●宇奈月支所 黒部市宇奈月老人福祉センター内
〒938-0862 黒部市宇奈月町浦山2111
TEL・FAX.(0765)65-9533
Eメール u-shakyo@ma.mrr.jp

くろべ

[場所] 黒部市福祉センター
介護予防のための
元気はつらつ体操教室

時間/10:00~11:00
参加費/300円(入館料のみ)
対象/65歳以上の方 ※■は休館日

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	31	1
2	3	4	5	6	7	8
		音楽	音楽	体操		
9	10	11	12	13	14	15
			健康体操A	体操		
16	17	18	19	20	21	22
		健康体操A		音楽		
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

時間/10:00~ 音楽 島山 悦子先生 健康体操A 泉 一郎先生

来て見てヤンバイ映画館

昭和45年作品
こちら55号応答せよ!
危機百発

出演:萩本 欽一・坂上 二郎

日時:3月3日(月) 13:30から
場所:下立まちおこしセンター

昭和38年作品
喜劇 駅前茶釜

出演:森繁 久彌

日時:3月4日(火) 13:30から
場所:愛本交流館

入場
無料

今月の相談日

民生委員児童委員と**心配ごと相談**
行政相談員と**行政相談**

黒部市福祉センター 3月11日(火) 13:30~15:30
黒部市立中央公民館 3月14日(金) 13:30~15:30
(宇奈月町浦山2100-2)

ご予約不要です

弁護士と**法律相談**

黒部市福祉センター
3月18日(火)
13:30~15:30

予約受付 3月3日より



3月 1日(土)~ 9日(日) プラセンタの湯
3月11日(火)~16日(日) アロマラベンダーの湯
3月18日(火)~23日(日) 梅の湯
3月25日(火)~30日(日) みかんの湯

町内の会合や趣味の集まりに、黒部市福祉センターをご利用ください。

ちょこっと情報 [黒部市の人口] 42,065人 [65歳以上の人口] 12,011人 高齢化率 28.4%
H26.2.1 現在(外国人を除く)

誕生日のお祝い!
センターの入浴券の
贈り物はいかがですか?
11枚綴り 3,000円

特集

忘れていませんか。
震災から3年、
復興はまだ道半ば。

2011年 3月11日 14時46分

2011年3月11日14時46分は、日本人にとって忘れられない日です。あの未曾有の大災害から3年が経ちました。復興はどのように進み、日本人の心はどう変化したのか、関わっているみなさんの声を現地から、この黒部からお届けします。まだたった3年。これからは自分に何ができるのか、何をしなければいけないのかを考えていきます。

大きな被害は今もなお続いています

東日本大震災の被害は、死者数1万5884人、行方不明者6150人、被害を受けた戸数は360万戸以上(※1)にもものぼり、多くの方々が避難所生活を余儀なくされました。今なお約27万人が全国各地に、また、ここ富山県にも約280名が避難されています。

時間の経過とともに震災に関する報道が減るなど、情報に触れる機会が少なくなっていますが、被災者や被災地を取り巻く状況は一刻と変化しています。

福島のいま

福島県伊達市で子育てサロン活動のかたわら放射線から子どもたちを守るための支援活動をしている「小国(おぐに)からの笑顔(えがお)」代表の大波尚美さんに現地での様子を伺いました。

「私を含め地域に住むみなさんの日常生活に関する不安は今もぬぐい切れてはいないというのが正直な気持ちですね。たくさんの方々が市を離れ避難されています。早くそれぞれの地域に戻ってきてほしいという思いはありますが、帰ってきてからの生活が安心できる状態にならないとなかなか戻れないというのが現状です。今では地域レベルで地区復興提案委員会というものも設置され、様々な人々が集まり協議を進め、これからの地域の在り方を考えています。」

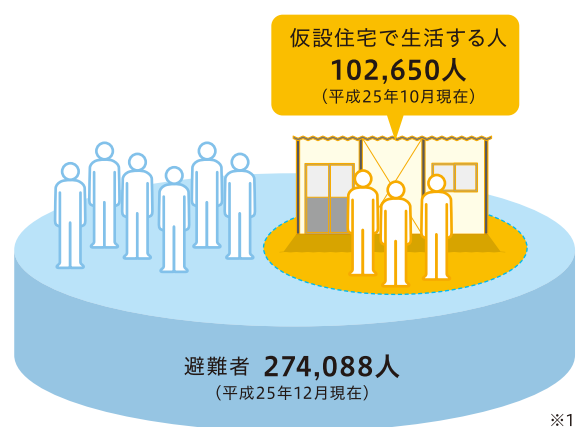
昨年、生まれ育った三重県松阪市から黒部市に移住し、ひとつづくりやまちづくりに取り組むNPO法人明日育(あすいく)を立ち上げた長井一浩さんは、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議(※2)のメンバーとして現在も月に5日間程度、岩手県で支援活動を行っています。今の被災地について伺ってみました。

※1 出典：復興庁Web。平成26年1月16日現在、警視庁Web。平成26年1月10日現在より抜粋。
※2 企業、NPO、社協、共同募金会などにより構成される全国的なネットワーク組織。災害時には多様な機関・組織、関係者などが協働・協力して被災者支援にあたり、平常時には災害支援に関わる調査・研究、人材育成や啓発活動を行っています。



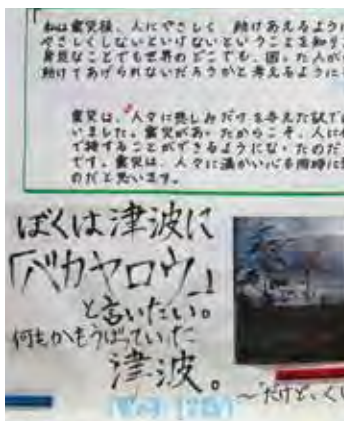
被災地に赴き支援活動を行う長井さん

市社協と黒部青年会議所で協働開催した黒部ボランティアバス(陸前高田市での活動の様子)



黒部からの支援も 続いています

黒部でも、被災地に向けて活動をする人々がいます。桜井高校の保健委員会では『震災を忘れないために』をテーマに被災地を訪問して得た情報をポスターにまとめ発表会を開催しました。原発事故の影響や震災後の生活や意識の変化など、生の声を伝えるという活動を行っています。被災した子どもたちが詠んだ詩を紹介した生徒は「どの詩からも怒りや悲しみがあふれていて心を打たれた」と話し、「復興までの道のりは長いが自分のこととして応援しなくてはいけないと感じた」と締めくくりました。



この発表を聞いたPTA役員は「発表を聞き、この震災を忘れない、風化させないという思いを強くした。建設会社の私に出来ること

私たちにも できることが あります

東日本大震災発災以来、多くのボランティアが支援を続けています。災害ボランティアセンターで受け付けを行った人は129万5300人(全社協調べ)にもなります。がれきの撤去や炊き出し、引越しの手伝いやサロンの運営など、活動は多岐に渡ります。

自分たちに何が出来るのかを考えてみると、ボランティアや募金以外ではなかなか想像することが難しいかもしれませんが、ここ黒部に居てもできることがあります。まずは、忘れないことです。あの日のことをずっと忘れないことが、誰にでもできる大切な支援です。

その他にも、3月下旬の春休みには、福島県伊達市の子どもたちを黒部に招いて交流事業と保養プログラムの実施を予定しています。災害時のボランティアアスターの役割などを体験する「災害救援ボランティアセンター立ち上げ訓練」も3月に三日市地区で開催します。

どこに居てもできることがあります。大切なのは、何かしようという気持ちを持つことです。みなさんの参加をお待ちしております。

は少しでも早く資材を届けることだと改めて思った。」と話し、高校生たちのまつすぐな気持ちが大人の心を動かしたことが伺えます。



小さなビーズに心を込めてコースターを作る本島さん

昨年末には、本島幸子(ゆきこ)さん(黒部市出島)がりハビリと趣味を兼ねて作ったビーズのコースターを気仙沼市社会福祉協議会を通じ被災者に届けました。本島さんの兄、浜木良雄さんと娘婿の文雄さんは津波の犠牲になりました。釧路で漁業会社を営み、マグロの出漁準備のため気仙沼に滞在していたのです。娘の西村好美さんに話を伺いました。

「伯父は気仙沼の行き帰りに脑梗塞を患った母をよく見舞ってくれました。『元気でおれよ』と励ま



福島の子どもたち

人ごとではない 災害を自分ごとにするために

私たちはいざという時のために様々な研修や体制づくりを進め、昨年は黒部青年会議所と災害時における協力の協定を結び連携強化も図っています。

青年会議所は全国で700近くの地域に存在し、そのつながりはとても強いものがあります。東日本大震災においても、独自の物資倉庫を確保し、1ヶ月に1000トンを超える物資を被災地に届けました。このように、地域の様々

され、どれだけ力付けられたかわかりません。震災後、自分に何ができるのかと強く思ってきました。100枚になった母の作品を気仙沼のみなさまへ届けることができ安堵しています。」

このほかに、JAKろべ女性部のみなさんが、福島県伊達市の子どもたちに黒部でたくさん採れた野菜を美味しく食べてもらおうと夏野菜を送ったり、市社協と黒部青年会議所で協働開催した黒部ボランティアバスの参加者が、自主的に企画しボランティア活動へ出かけたりと、遠く離れた黒部でも支援の輪は広がっています。



娘の西村好美さんの手紙とともに贈られた本島さんのビーズのコースター

団体の強みを活かした連携体制を整えていきます。

また、市民のみなさんに災害を自分ごととして捉えていただくために「くろべ防災BOOK」を全世帯に配布し、自ら一人ひとりが備えること、考えることを推進していきたいと思えます。

大切な家族を守るためにも、今一度万が一の時に備え、家族や近隣の人とコミュニケーションを取り、確認し合うきっかけに、この冊子を役立てていただければと思います。

イベント情報

災害ボランティアについて考える

災害ボランティア活動支援研修会

演題「災害時に活かされる地域力」

講師/長井一浩氏

NPO法人明日育常務理事/災害支援プロジェクト会議 支援者

日時/3月15日(土) 9時30分~11時30分

場所/黒部市民会館

福島県伊達市の子どもたちの保養プログラム

「キラキラキャンプ黒部スプリング2014」

子どもたちと一緒に遊んだり、キャンプのお手伝い(ボランティア)をして交流しませんか。

日時/3月24日~3月27日(予定)

場所/黒部市周辺

詳細は黒部市社会福祉協議会までお問合せください



全国の青年会議所が連携して被災地に物資を送りました

【ボランティアのみなさんへ】
おしらせ
2
ボランティア活動保険のご案内

ボランティア活動中のケガや思わぬ事故のための保険のお知らせです。安心して活動をしていただくためにぜひご加入ください。

傷害事故	ボランティア活動中に急激、偶然な外来の事故によりケガをした場合		
賠償事故	ボランティア活動中の偶然な事故で他人にケガをさせたり、物を壊したときに法律上の損害賠償責任を負った場合		
保険料金※1	基本Aタイプ	300円	基本Bタイプ 420円
	天災Aタイプ	490円	天災Bタイプ 720円
補償期間※2	平成26年4月1日から平成27年3月31日まで		

※1.くろべボランティアセンターでは、上記の掛金に対し1人50円分の助成を行います。
※2.4月1日以降加入の場合は、加入申込が完了した日から平成27年3月31日まで。

おしらせ
1
災害ボランティア活動
支援研修会を開催します

平成26年 3月15日(土) 9:30~11:30
[会場] 黒部市民会館
[対象] 災害ボランティア活動に関心のある方

研修内容
1. 災害が起きた時、地域の支え合いに関する講義
2. 災害ボランティアセンターの目的・役割確認

お申込みは3月11日(火)まで
参加者 募集中

ふくし
スマイル
ワーカー



池田リハビリテーション病院
作業療法士
清水 賢治 さん (35歳)
リハビリが必要な方の自宅を訪問し
生活に合わせて体を動かせるよう指導

イベントpick up!

ティータイムに合う 平成26年 3月17日(月)
デザートを作ろう! 9:30~12:30
●会場●大布施公民館 調理室

講師 Green cafeオーナー 岩井治樹さん
参加費 1,300円(入館料含む)
持ち物 エプロン、三角巾、タオル
【参加受付】3月12日(水)まで
定員 15名

黒部市社協杯
チャリティーパークゴルフ大会

平成26年 3月27日(木) 9:00~13:30(集合8:30)
会場 黒部リバーサイドパークゴルフ場

対象者 黒部市内に住む概ね60歳以上の方
参加費 1,500円(昼食付き)
豪華賞品プレゼント!
※昼食、表彰式は黒部市福祉センターで行います。
※参加費の一部は「あったか雪募金」に寄付いたします。
定員になり次第受付終了します。

お申込みは
福祉センターまで
お越しください

ホームヘルパーさん募集

利用者さん宅を訪問し、介護・家事等を行います。

勤務時間	●正職員/8:30~17:15 ●登録ヘルパー/6:00~22:00のうち勤務可能な時間	募集人数 正職員 1名 登録ヘルパー 5名
応募資格	●ホームヘルパー2級課程を修了された方 ●普通自動車免許	

信頼され何でも話してもらえる
“第3の身内になれるように”

脳梗塞やパーキンソン病のため障がいの残る身体部分に関節をほぐすなどの運動療法を施します。「暮らし方も能力も違う一人ひとりの利用者が、自宅で生活していくにはどうしたらいいか」常に考えているとのこと。洗顔やお風呂、食事、トイレなど身の周りのことが自分でできるように、作業を提案して練習。「すぐに具体的な効果が返ってくるのが訪問リハビリの魅力。信頼され何でも話してもらえる“第3の身内になれるように”努めています、と言ったら大げさかな」とうれながら話してくれました。

催し物と休館日のご案内

黒部市福祉センター

利用時間 8:30~16:30 入浴時間 10:00~16:00

3月の催し物

1日(土)	みまもり感謝の集い	8:30~
7日(金)	囲碁・将棋大会(1日目)	9:30~
9日(日)	魚津カラオケ友好会	10:30~
11日(火)	松の会くろべ	10:30~
14日(金)	囲碁・将棋大会(2日目)	9:30~
15日(土)	歌謡パラダイスふれあいショー	10:30~
23日(日)	日本海歌謡研究会歌と踊りの祭典	10:30~
26日(水)	シルバー人材センターカラオケ	10:30~

4月の催し物

4月の催し物予定は次号にてお知らせいたします。

3月の休館日	3日(月)・10日(月)・17日(月)・22日(土)・24日(月)・31日(月) ※3月22日(土)は春分の日の振替休館となります。
4月の休館日	7日(月)・14日(月)・21日(月)・28日(月)・30日(水) ※4月30日(水)は昭和の日の振替休館となります。

赤い羽根共同募金
助成申請説明会

黒部のまちを良くする活動の
助成先を公募します

平成26年 4月15日(火) 15:30~16:30
[会場] 黒部市福祉センター 相談室

- 対象団体 ●社会福祉法人 ●NPO法人
●地域団体(自治会等)
●福祉団体 ●ボランティア団体等
- 対象事業 地域福祉が目的で、活動区域が黒部市の事業(平成27年4月1日~平成28年3月31日の期間内)
※他の補助金との重複や公的補填がある事業、また営利・経費目的である場合は対象となりません。
- 助成金 1団体 10万円以内
※上限額は団体の規模・事業内容により変更する場合があります。

事前にお申込みの上、説明会には必ずご出席ください。

ゆずって下さい軽四自動車

●車種、年式不問
●程度の良い軽四自動車
在宅福祉の推進を図るためホームヘルパー訪問用の軽四自動車を譲っていただける方を求めています。



介護予防の知識を地域に発信します
介護予防入門教室を開催しました

前沢地区社会福祉協議会主催で、昨年12月7日と14日に2回シリーズで「自分の行く道 家族の行く道」と題して、介護予防入門教室が開催されました。住民の方からの「介護予防ちや何け?」「何を知った方がいいがけ?」などの身近で素朴な疑問を解決できればとの思いで、このような機会を持ちました。

1回目は、市社会福祉協議会古野地域福祉課長が、「これからの地域や生活の姿と知っておきたい知識」と題して講演し、「医療・介護など『体にさわる福祉』と、生活を支える『生活にさわる福祉』がある。」この言葉に、参加者は大きくうなづいて納得していました。また、個人や地域社会、施策・制度の状況についてユーモアを交えながら説明され、参加者は近所や地域の関わりが非常に大切だと気付か

活動レポート



真剣に語り合う古野地域福祉課長と参加者のみなさん

されました。2回目は、黒部市出前講座として市福祉課浦田係長が、介護保険制度の背景や目的をはじめ介護保険財政と保険料について話されました。

2日間を通して、前沢公民館黒川富美香主事は「地域の問題は地域全体の課題として捉えていかなければならない」と話し、参加者からは介護予防入門教室を各地区単位で開催してほしいという声があり、地域への発信の必要性を感じていました。

写真レポート



1月24日(金)一村橋公民館ロビー

14名のボランティア部会の方々と食生活改善推進員の方が55食の配食弁当を作りました。ボランティアの方は「お弁当を届けに行き、高齢者の方とお話することが楽しい。喜んでもらえるし、自分も作っていて楽しい。」と話していました。

笑顔でお弁当を受け取った稲澤せきさん

栄養満点のお弁当ができました
村橋地区高齢者への配食サービス